

埼玉偕行会総会

川島 順 予科21-7
(越谷市) 航空7-1

埼玉偕行会総会は7月1日(日)さいたま市民会館うらわで開催された。

旧軍は60期4名、61期+幼年校5名とだんだん寂しくなってきた。

陸自は33名、その他に来賓として、朝霞駐屯地司令、広報班長、偕行社本部、神奈川偕行会、隊友会、参議院議員佐藤正久秘書、同宇都隆史秘書等、総勢56名と盛会であった。

定刻10時より、大浦誠哉(陸自60)の司会で【年次総会】が、国歌斉唱、黙祷より始まり、新会長の柳澤壽昭(陸自69)の挨拶、小林武一事務局長(陸自64)の会務報告、新役員紹介等滞りなく議事が進行した。



柳澤会長の挨拶

次いで、記念講演として、中野義久朝霞駐屯地司令の「国際情勢と我が国の防衛」と題する講話を拝聴。

【講演要旨】

米国の圧倒的な軍事力の存在によって全面戦争が出来なくなってきた国際情勢化、力による現状変更が大きな問題になってきた。北朝鮮の核ミサイルの保有、

中国の南シナ海の軍事基地化、ロシアのクリミア併合、北方4島にミサイル基地展開等である。



このような力による現状変更に対して我が国はどのように対処したら良いか。それには次の様な更なる防衛努力が必要である。

- (1) 指揮統制能力の強化
陸上総隊の編成
- (2) 作戦基本部隊の改編
鎮西機動師団・即応機動部隊
- (3) 水陸両用機能の整備
- (4) 警戒監視機能の強化
教育訓練研究本部の新設

最後に、災害派遣、国際貢献の重要性についても言及された。

定刻の12時から中村幹生(陸自73)の司会のもと【懇親会】が始まる。

柳澤会長の挨拶の後、中野駐屯地司令、志摩篤偕行社会長、山野正志埼玉地方協力本部長、浦山長人隊友会会長の来賓挨拶を頂く。会食中も各グループの代表の挨拶や発言有り、ゆっくり飲んでいる暇も無かった。

恒例の軍歌演習は、旧軍陸士グループの「航空百日祭」、「陸士校歌」に引き続き、陸自の「この国は」、幹候校歌、行進曲とますます盛り上がる。

締めは内山恵子和光市市会議員(陸自

89) の音頭で手締め。

閉会の辞は小林武一事務局長の「来年も又」で幕を閉じた。

秩父 143 号(平成 31 年 4 月)

埼玉偕行会忘年会

川島 順 予科 21-7
(越谷市) 航空 7-1

平成 30 年 12 月 9 日、埼玉偕行会の忘年会がさいたま市民会館浦和で開催された。出席者は総勢 33 名、内陸士関係は 59 期 1 名、60 期 6 名、61 期 1 名であった。次第に陸士関係の出席者が少なくなるのは寂しい限りである。

忘年会に先立ち、偕行社安全保障委員会事務局長の中川義章氏により「原子力と軍事」の議題の特別講演が行われた。講師の中川氏は東大、マサチューセッツ大学で原子力工学を専攻し、世界平和研究所、陸上自衛隊研究本部長を歴任した原子力のベテランである。



中川義章講師

最初に原子力の世界の題名で原子力の基礎知識を解説。

核分裂物質は純度を高め集めると核分裂が起き十分な量があれば連鎖反応を起こし爆発的なエネルギーを発生する。この力をコントロールする学問が原子力工学で、そのコントロールの仕方によって、原子力発電と核兵器になる。

核兵器は軽量化と爆発力のコントロールが重要で、このためにインプレーション(爆縮)という技術で、最も少ない量の核分裂物質を臨界状態にする、これが原爆である。

更にこの原爆の爆発によって発生する高温高压で水素(重水素、3重水素)の核融合反応を起こす水爆が実現した。

米ソの近代化の方向は、爆発力の小型化と地球への貫通力の強い核兵器の開発を目指しているが、一方、北朝鮮は最初から計画的に出力コントロール技術を基礎にした水爆の開発を目指している。現在の北朝鮮の核戦力は、ノドン級ミサイル(飛行距離 1300 km)に搭載する確実に爆発可能な核弾頭を数十発保有していることは確実で、その目標は韓国、日本の米軍基地である。

核爆発から身を守る術は、直撃を受けた場合は手の施しようもないが、やや離れた地点にいた場合、最も恐ろしいのは放射性降下物、所謂死の灰である。それを避ける為には、遮蔽物に隠れることが最善の方法である。壊れていない建物に逃げ込み、着ている物を着替える。出来ればシャワーを浴びる。更に避難する場所は地下室がベストである。

質問に対して：(1) 日本が核兵器を造る能力とその実現の可能性：

日本は核兵器を造る能力は十分持っている。しかし、それを実現する為には、開発、兵器化、工業化には約 10 年の年月が必要であろう。

(2) 核融合原子炉の日本での実現の可能性：2030 年代には フランスの ITER 計画の実験炉が完成する。その時期には日本でも核融合炉の開発は可能と

なるであろう。

忘年会

記念講演の後席を移して忘年会が開催された。柳澤埼玉偕行会会長の挨拶の後、参加者全員がショートスピーチを行った。



忘年会歓談風景

秩父 145 号(令和 1 年 10 月)

埼玉偕行会総会

川島 順 予科 21-7
(越谷市) 航空 7-1

令和元年6月30日(日)第43回埼玉偕行会の総会がさいたま市民会館浦和で行われた。参加者56名、内陸士は60期の福島、弘中、田村、石塚、川島と東京の甲斐の6名と61期の2名のみ。先輩期は皆無。陸自は35名と比較的若

い期の出席者が多かった。



柳澤埼玉偕行会会長

まず、総会は、国旗に敬礼、国歌斉唱、黙禱に始まり、柳澤会長の挨拶に続き、小林実行本部長の会務報告が行われた。

総会后、鬼頭健司朝霞駐屯地司令の「陸上自衛隊の現況」と題する記念講演が行われた。

その要旨は：『ロシア、中国、北鮮の軍事力の増強、特に、核戦力の増強、サイバー兵器、電子戦兵器の配備等に対応する国家安全保障計画を立案している。その一つに島嶼奪回作戦があるが、へりによる偵察及び兵員輸送、上陸用舟艇による主力部隊の侵攻作戦の様相をビデオにより紹介する。



鬼頭朝霞駐屯地司令

陸上防衛機関の強化のために陸上総隊司令部を新たに設けた。総隊司令部とは陸上自衛隊、自衛艦隊、航空総隊と米軍との間の運用上の調製を一元化する機関で、振武台に設けられている。その隷下部隊である東部方面隊では、ゲリラ、武装工作員、生物兵器、弾道ミサイル等にも対応できる機器の整備と兵員の養成に努めている。また、600名の兵員を24時間以内に西南地区の島嶼に派遣できる態勢を整えている。最後に、幹部候補生学校の現状を紹介する。』

正午より懇親会が開かれた。まず、柳澤会長の挨拶、来賓、鬼頭朝霞駐屯地司令、志摩偕行社会長、竹内化学学校長、山野埼玉地方協力本部長、横山第32普通科連隊長、山澤埼玉県隊友会副会長の祝辞を頂く。

懇談の後、恒例の軍歌演習が陸士グループ、陸自グループで競演、岡重夫埼玉県議会議員の締め言葉に続いて、小林実行本部長の閉会の辞で幕を閉じた。